

もう足が動いた！ヨーグルトも食べた！！



リハビリ初日に力強く「始動」、というところから。去る4日から脳梗塞で入院している五輪日本代表・長嶋監督、6日目を迎えたこの日（9日）からリハビリに入った。巨人・原沢広報部長が東京女子医大病院関係者に聞いた説明によると、「朝の8時30分から約1

自力で腰かけることが出来るようになった」

# 長嶋監督入院6日目 驚異の回復力

誤算

「長嶋監督がアマチュアの中で気にしている存在」。今ドラフトの目玉を日本代表の中畑ヘッドコーチも絶賛である。

この日（9日）、社会人野

球、シダックスの野間口貴彦（20）が東京大会2回戦の日本新薬戦に先発。五回に1点を失うと八回には中堅手が浅い当たりを後逸する不運なラニング本塁打でさらに2失点。10三振を奪いながらも八回途中に降板した。

野間口は「このときに三振が取れるように、全体的

「レベルアップしないと」

ガツクリ。

もつとも、視察した中畑コーチは「この時期に最速149キロを出せるのはプロでもそれほどいない。注目し値する投手」と高い評価である。

野間口は社会人から唯一、長嶋ジャパン入りにすることに

下げができる。また右手については、触れられていることがわかるなどの感覚がある。また、自分で起き上がって、ベッドに腰かけることもできるようになっています」

とのこと。また、前日まで栄養補給は点滴だけだったが、6日目のこの日初めてヨーグルトを1カップ食べている。さらに、看護師が「おはようございます」とあいさつすると、ゆっくりながら「おは、周囲の人間にもはつきりわかるように」おは

よう」と答えたそうだ。

「脳梗塞を起こした68歳の男性としては、全体的に早い回復を示していると言えます」と、くどうちあき脳神経外科クリニック院長・工藤千秋氏はこう解説してくれた。

「現在の状態を聞くと、小さな脳梗塞で済んだ可能性が高い。右足については、今後も順調な回復を見せるのではないかと。あとはこの2週間ほどの程度しゃべる力、右手の力が戻ってくるかです。この両者をつかさどる部

位は脳の中でも大変近いところにあって、2週間くらいはむくみが残っている。だから、この2週間の間にどのくらい右手のマヒが回復し、言葉をしゃべれるようになるかが最初のポイントでしょう」

一つ一つは小さくても、脳梗塞という大病であることを考えれば実に大きな前進。「やはり長嶋さんの体は普通の方よりも回復力が早い」（工藤氏）ということである。